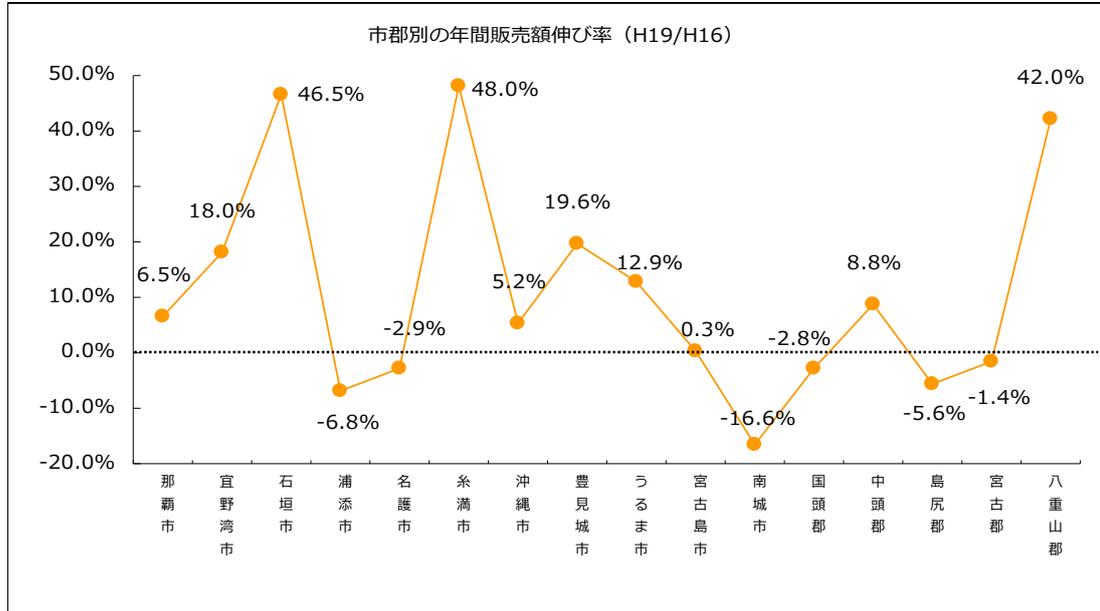


平成19年商業統計調査確報からPart II 【沖縄県内の状況】

沖縄県内で、年間商品販売額が伸びているのは、どの地域でしょうか。商業統計調査確報から市郡別に、平成16年と平成19年の年間商品販売額の伸びを比較してみます。

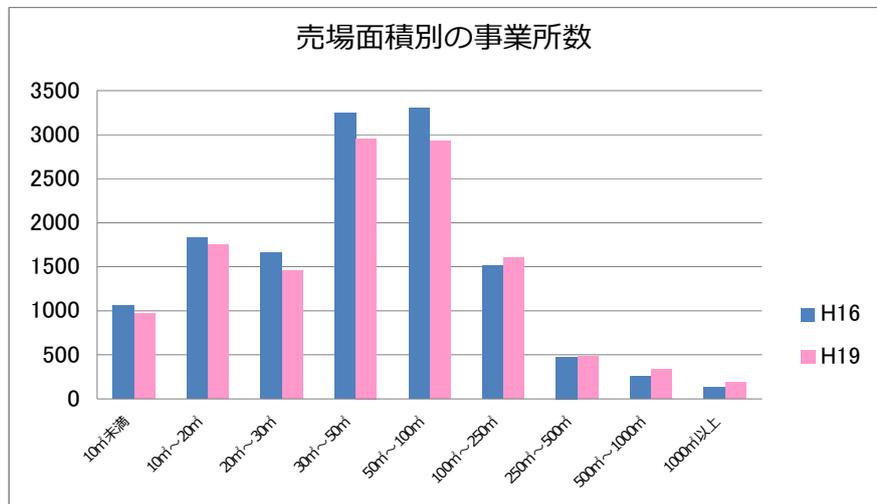


糸満市や石垣市、八重山郡で40%を超える大きな伸びを見せているほか、豊見城市や宜野湾市なども20%近く伸びています。これらの地域では、人口が増えたり、新規で商業施設がオープンしたために年間商品販売額が伸びているようです。

次に、沖縄県における売場面積別の小売事業所数の推移を見てみます。

売場面積が100㎡未満の事業所数は、平成16年に比べて減少していますが、100㎡を超える事業所数は逆に増加傾向にあります。

つまり、規模の小さな個人商店などが減少し大型小売店が増えているのです。



以上のように、沖縄県では年間商品販売額が好調に推移している反面、規模の小さな商店が減少するなどの問題が生じていることがわかります。

クーポン券の発行やイベントの開催など、独自の振興策を講じている商店街もありますが、国や自治体による小規模な商店への振興策が今後期待されるようです。

資料: 経済産業省 商業統計調査確報

注)うるま市、宮古島市、南城市は、平成16年については現在の市制にあわせている。